

VHF / UHF 帯電波有効利用作業班 VHF 帯共用検討グループ 課題回答書 (案)

【課題】

○自営通信グループ

検討に当たっては、限られた帯域（VHF 帯のハイバンドにおいて、 $30 \pm 5\text{MHz}$ 幅）を如何に使うかという観点から、例えば、防災等の安心・安全用途といった包括的な目的のために、トータルとしてどの程度周波数が必要なのか、技術、方式等による周波数的な重複が発生しないよう検討すること。

○放送グループ

検討に当たっては、限られた帯域（VHF 帯のローバンド 18MHz 幅を含む $30 \pm 5\text{MHz}$ 幅）を如何に使うかという観点から、放送用途といった包括的な目的のために、トータルとしてどの程度周波数が必要なのか、技術、方式等による周波数的な重複が発生しないよう検討すること。

【回答】

(1) 所要周波数帯域幅について

VHF 帯を自営通信および放送で用途を検討するとされた事を受けて、自営通信における防災等の安心・安全用途および放送用途で、それぞれ、「検討条件: 35MHz 幅」で検討を進める。

必要周波数幅の考え方および検討状況については、自営通信グループおよび放送グループの課題回答資料 2022-VU 作-VHFad2-2-別添 1~2 を参照。

(2) 周波数の配置について

VHF 帯のローバンド (18MHz 幅) は、放送用途に使用する。

VHF 帯のハイバンド (52MHz 幅) は、上記(1)項の「検討条件」を基に、 17MHz 幅を放送用途で、残り 35MHz 幅を安心・安全用途とし、ハイバンド内の各用途の周波数配置はガードバンド等の共用条件を考慮して最も周波数の有効活用が図られる配置を検討する。

(3) ガードバンドについて

・各用途間のガードバンドについては、安心・安全用途および放送用途が、それぞれの検討条件である 35MHz 幅帯域内に、且つ全体に最も周波数の有効活用が図られる方式等により、必要に応じてガードバンドの確保を検討する。

・また、VHF のローバンドおよびハイバンドの上下に隣接する他システムとの干渉条件も検討課題である。

・ガードバンドの検討にあたっては、参考資料 2022-VU 作-VHFad2-参考 1~2 のように、それぞれの用途に想定される技術的なパラメーターモデルを作成し、互いの干渉状況、共用条件を検討する。 以上